

# 子ども読書支援センターニュース No.163

2017. 12. 31

山口県子ども読書支援センター（山口県立山口図書館）発行

TEL083-924-2111 FAX083-932-2817 <http://library.pref.yamaguchi.lg.jp>

## ★メールマガジン「本はともだち～山口県子ども読書支援センターニュース」配信中！

メールマガジン「本はともだち」は、新刊紹介や県内の行事など、より充実した内容で配信中です。読者登録の方法は県立図書館のホームページをご覧ください。

## 【山口県子ども読書支援センター行事】

### ★幼児のためのおはなし会

○日時：平成30年1月9日（火）11：00～11：20

○会場：山口県立山口図書館 ○対象：幼児

《12月のおはなし会で使った本》

『はねはねはねちゃん』 中川李枝子/文 山脇百合子/絵 福音館書店 1998

『でんしゃでいこうでんしゃでかえろう』 間瀬なおかた/作・絵 チャイルド本社 2005

『てじな』 土屋富士夫/作 福音館書店 2007

『よいしょよいしょ』（紙芝居） まついのりこ/脚本・絵 童心社 2004

◎申込み、連絡先：山口県子ども読書支援センター（電話：083-924-2111 FAX：083-932-2817 Eメール：a50401@pref.yamaguchi.lg.jp）

### 【新刊紹介】 価格は消費税抜き

#### <絵本-乳幼児から>

『はじまるよ』 熊谷守一/絵 ぱくきょんみ/文 福音館書店 2017.11 ¥800

今年で没後40年になる画家・熊谷守一の絵に、詩人・ぱくきょんみが、子どものつぶやきの言葉を添えた絵本。「おひさま、おはよう あさが はじまるよ」。風を感じ、蜂や小鳥、猫などに会い、心踊った子どもの一日が静かに終わる。「こどものとも0.1.2.」シリーズ。「こどものとも幼年版」（2009年11月号）のハードカバー版。

#### <絵本-3, 4歳から>

『クマと森のピアノ』 デイビッド・リッチフィールド/作 俵万智/訳 ポプラ社 2017.10 ¥1400

こぐまのブラウンは、森のなかでピアノを見つけ、その音に魅了される。独学で練習し、やがて素敵な演奏ができるように、森の中でブラウンの演奏を聴いた人間に、街で演奏することをすすめられ、コンサートやCDデビューを果たすなど大成功するが…。夢を実現することのすばらしさ、友達とのつながり等を描いた絵本。2016年ウォーターストーンズ児童書賞（絵本部門）受賞作。

#### <絵本-5, 6歳から>

『じゃやのかね』 とうごうなりさ/作 福音館書店 2017.11 ¥1200

大晦日の夜、男の子はパパと除夜の鐘を撞きにお寺に向かった。静かに暗い道を歩き、列に並んで甘酒をもらった。いよいよ鐘を撞く順番が回ってきて…。はじめて除夜の鐘を撞きに行く男の子の緊張感、新しい年になる瞬間の期待感等を、黒白2色の版画で表現している。日本の伝統行事を紹介するのに役立つ絵本。

『ひとりでおかいました』 くすのきしげのり/作 ゆーちみえこ/絵 アリス館 2017.11 ¥1300

今日はかおりちゃんのお誕生日。プレゼントはかおりちゃんが自分で作った「ひとりでおかいものけん」。「おかいものけん」を持って向かったのは、なじみの町の本屋さん。さて、かおりちゃんはひとりで好きな本を買えるかな…。初めての買い物の様子が微笑ましい。親切な書店員や、楽しげな店内の様子や絵本コーナー等も描かれている。本屋さんに行きたくなる絵本。

#### <絵本-小学校低学年から>

『チャールズ・ダーウィン、世界をめぐる』 ジェニファー・サームズ/作 まつむらゆりこ/訳 廣済堂あかつき 2017.9 ¥1800

チャールズ・ダーウィンは、教室で学ぶより野外で生き物を探ることが大好きな子どもだった。22歳のチャールズは、調査船ビーグル号に乗って5年間の世界一周の旅に出た。調査が終わる頃、船はガラパゴス諸島に到着し、チャールズは島ごとでくちばしの形が異なるフィンチと出会う…。『種の起源』で有名なダーウィンの若き日の姿を、生き生きと描いた伝記絵本。

#### <絵本-小学校中学年から>

『わたしも水着をきてみたい』 オーサ・ストルク/作 ヒッテ・スパー/絵 きただいえりこ/訳 さ・え・ら書房 2017.10 ¥1200

ソマリア出身のファドマの家族はイスラム教徒。イスラム教では、女の子が男の子と一緒にプールに入ることは禁じられている。だからファドマは、スウェーデンの学校のプールの授業は、いつも見学。スナンナ先生が誘ってくれた「女性だけの水泳教室」にお母さんと一緒に参加したファドマは…。文化や慣習の違いを互いに尊重し、交流することの大切さを教えてくれる本。

#### <絵本-小学校高学年から>

『おーいでてこーい 鏡のなかの犬』 星新一/作 中島梨絵/絵 ミキハウス 2017.11 ¥1300

「ショートショート」の神様と称されたSF作家の星新一。没後20年にあたる2017年、「ミキハウスの星新一ショートショートえほんシリーズ」の刊行が始まった。シリーズ第1弾としては、本作と『友を失った夜 とりひき』『サーカスの旅 薬と夢』の3冊が刊行。星新一の原文を底本に、漢字こぼしはふりがながついている。絵本1冊に2作品を所収。

#### <読み物-小学校低学年から>

『プーカの谷 アイルランドのこわい話』 渡辺洋子/編・訳 野田智裕/絵 こぐま社 2017.10 ¥1200

プーカとは、死んだ後、すぐにあの世に行けず、大きな犬や馬やヤギの姿で人間の世界をさまよっている魂のこと。アイルランド

の山奥にある谷には昔からプーカがよく現れ、「い子にしていなと、プーカに連れていかれるぞ」と恐れられていた。表題作をはじめ、アイルランドのちょっとこわくてふしぎな民話3作を収録。「こぐまのどんどんぶんこ」シリーズ。

#### <読み物—小学校中学年から>

『ビーおばさんとおでかけ』 ダイアナ・ウィン・ジョーンズ/作 野口絵美/訳 佐竹美保/絵 徳間書店 2017.10 ¥1700

ビーおばさんと一緒に海水浴に出かけることになった3人の兄弟と犬のハニー。人混みを避けて岩場を伝い、その先の島にたどりつくが、その島には「立入禁止」「入ると後悔するぞ」という看板が。気の強いおばさんは、そんなお構いなしに、水着に着替え、海水浴を楽しもうとするが…。ファンタジーの女王である著者の短編に、豪華なカラー挿絵をたっぷり添えた作品。

#### <読み物—小学校高学年から>

『まっすぐな地平線』 森島いずみ/著 偕成社 2017.10 ¥1200

3年前にカメラマンのお父さんと一緒に出かけた撮影旅行先の中国で知り合ったミンミンが、悠介のうちにやってきた。悠介は、ミンミンが見たいという海を見に連れて行くが、その帰り、急に体調を崩し寝込んでしまう。ミンミンは、そんな悠介を中国の薬を煎じて介抱してくれた。国境を越えた2人の絆を優しく描く。第15回小川未明文学賞優秀賞『ニイハオ!ミンミン』を加筆修正。

『絵物語古事記』 富安陽子/文 山村浩二/絵 三浦佑之/監修 偕成社 2017.12 ¥1600

現存する日本最古の歴史書「古事記」。天地の始まりから、7世紀の推古天皇の時代までの歴史を記した全3巻のうち、上巻に綴られている神話の部分を、絵物語としてまとめた1冊。「古事記」研究の第一人者の監修のもと、児童文学作家である著者が書き綴る。全ページにある挿絵が、迫力のあるイメージを広げ、初めて読む『古事記』としてふさわしい。

#### <読み物—中学生から>

『安寿姫草紙(ものがたり)』 三田村信行/作 ポプラ社 2017.10 ¥1500

陸奥の国の岩木判官正氏が突然流罪。安寿姫は父の汚名を返上すべく、母と弟と共に都を目指すが、人買いに売られ強欲な山椒大夫のもとへ。命がけで、弟・厨子王を守り抜き、陰謀渦巻く都で、父の事件の真相に迫る。「風の陰陽師」「妖怪道中膝栗毛」シリーズなどの作者が、説教節「山椒大夫」をもとに描いた、強く優しい姫の物語。「ノベルズ・エクスプレス」シリーズ。

『嘘の木』 フランシス・ハーディング/著 児玉敦子/訳 東京創元社 2017.10 ¥3000

19世紀後半、ダーウィンの進化論に揺れる英国で、高名な博物学者である父が不正を疑われ、島で謎の死を遂げた。14歳の娘・フェイスは父の死の真相究明を決意。嘘を養分に育ち、その実を食べたものに真実を見せるという木の秘密に辿りつき…。ミステリーでもあり、主人公の成長を描いた王道のYAでもある歴史ファンタジー。2015年コスタ賞大賞、児童文学部門賞をダブル受賞。

#### <ノンフィクション—小学校低学年から>

『アルゴリズムえほん 1アイデアはひとつじゃない!』 松田孝/監修 フレーベル館 2017.9 ¥2800

アルゴリズムとは、目的をかなえるための方法のこと。プログラミングの土台アルゴリズムを、ストーリーで身につける絵本。指導者向けのプログラミング授業アドバイスも掲載。1は、学校へ行く、体操着を交換するなどのテーマで、アルゴリズムとはなにかを解説する。「2ならばかえたり、さがしたり!」「3フローチャートで、みらいをえがけ!」「4あそべるアルゴリズム!!」

#### <ノンフィクション—小学校中学年から>

『文様えほん』 谷山暎子/作 あすなろ書房 2017.9 ¥1400

文様とは、衣服や日用品、建物などの飾りつけのためにつけられた絵や形のこと。植物・動物・自然をモチーフにしたもの、幾何学模様など様々で、その形ならではの名前と意味がある。よく見かける着物の柄から、家紋や世界の文様まで、古今東西300種の文様を、イラストでわかりやすく紹介。巻末に用語集や豆知識付き。読んだ後には、身の回りから文様を探す楽しみが生まれる1冊。

『図書館を心から愛した男アンドリュー・カーネギー物語』 アンドリュー・ラーセン/文 カティ・マレー/絵 志多田静/訳 六耀社 2017.11 ¥1500

1835年にスコットランドで生まれ、アメリカへ移住したアンドリュー・カーネギー。働くことで精一杯で、学校へ行けなかった彼は、地元の個人図書館で本を読むことで、多くのことを学んだ。自分の成功には図書館がとても重要な役割を果たしてくれたと、多くの公共図書館づくりのために寄付を続けていく。鉄鋼王カーネギーの、慈善活動家としての一面を知ることができる作品。

#### <ノンフィクション—小学校高学年から>

『鳥獣戯画を読みとく』 五味文彦/監修 岩崎書店 2017.11 ¥3600

平安時代に描かれた、日本に現存する絵巻物で最も古いものの一つである「鳥獣戯画」。動物が人のまねをする空想の世界をえがいた甲巻、16種の動物が登場する乙巻、昔の遊びがわかる丙巻、ユーモアたっぷりの人物が出てくる丁巻の、4巻合わせた絵巻物の世界をわかりやすく紹介。こんなテーマの本はない?という先生や、司書の声から生まれた「調べる学習百科」シリーズ。

#### <ノンフィクション—中学生から>

『世界は変形菌でいっぱい!』 増井真那/著 朝日出版社 2017.11 ¥1800

5歳で変形菌に出会い、その魅力に取り付かれて飼育を始め、日本変形菌研究会に入り、研究を続けている16歳の少年が、「キレイ」で「フシギ」で「カワイイ」生き物を色鮮やかな写真と共に紹介する。専門分野以外にも興味を持つことの大切さや、疑問を持って試行錯誤する楽しさ、研究を通して人と出会う喜びも語っている。驚きの単細胞生物の世界を子ども目線で案内してくれる。

#### <研究書>

『えほんのせかいこどものせかい』 松岡享子/著 文藝春秋 2017.10 ¥680

子どもにとって絵本(お話)がどんな意味を持つのか、子どもを本の世界に引き入れるためにどうすればよいのか。東京子ども図書館で経験を積んだ著者が、読み聞かせのコツや優れた絵本を選ぶポイント、読み聞かせにお薦めの34冊を紹介する。1987年、日本エディタースクール出版部発行の同書を、文庫化に際して16ページ分のカラー写真を加え、絵本画像も撮り下ろしている。

『藤田浩子のハンカチでおはなし』 藤田浩子/編著 一声社 2017.10 ¥1000

おはなしおばさんが、親子で、保育園・幼稚園で、おはなし会で、手軽に楽しめるハンカチ(布)あそびを、イラストを使って紹介。お話や歌と共にハンカチで人形やネズミを作ったり、みんなで遊んだり、色が出てくるお話を語ったり…。46のお話付きハンカチ遊びが、楽譜と共にフルカラーで掲載されている。『藤田浩子のあやとりでおはなし』に続く第2弾。